



自宅に飾られた多くの盾やトロフィーが千葉さんのこれまでの活躍を物語ります

もつひとつの世界制覇

王貞治監督が率いた日本代表が世界一に輝いたワールド・ベースボール・クラシック（WBC）。彼らと同じユニホームを着たもう1つの日本代表が、世界制覇を成し遂げました。

11月4、5日に神戸市のスカイマークスタジアムで「第1回世界身体障害者野球日本大会」が開かれました。この大会で初代王者に輝いた、日本代表チームの主軸として活躍したのが千葉直希さん（25）です。

大会には、野球先進国である日本・米国・韓国・台湾の4カ国が参加しました。千葉さんはチーム最年少ながら、大会通算6打数3安打5打点という成績で優勝に貢献。優秀選手賞も獲得しました。

小学4年から本格的に野球を始めた千葉さんは、甲子園常連校の仙台育英高に進学。3年の春には控え選手として、甲子園のベンチ入りを果たしました。

平成14年の夏、社会人として軟式野球チームなどで活躍する千葉さんに、突然悪夢が襲いかかりました。働いていた工場の機械で右手を挟まれたのです。「120%ボールを握れない」という医師の説明にショックを受け、職場の同僚の見舞いも断るほどでした。

「今できることは、野球を通じて人を励ますこと」

あきらめない姿勢が世界一へとつながる

千葉 直希さん

ちば なおき

世界身体障害者野球大会では日本代表の4番打者として活躍。市内にも障害者野球チームをと意気込む。妻、長女、両親、姉、弟、祖父母の9人暮らし。前沢区古城字野中前在住。25歳。

周囲の支えが実を結ぶ

野球を始めるきっかけとなった父・哲夫さん（54）の励ましなどを受け、再び大好きな野球の練習をする決意をした千葉さんでしたが、現実の壁に直面しました。

キャッチボールで最初に投げたボールは目の前に落ち、一時は左手で投げることも考えたほどです。練習を繰り返すうちに癒着した右手の指先は皮膚が擦り切れ、血がにじむことも。手に合うようにグローブとサポーターを改造してくれた母・悦子さん（53）や、キャッチボールに付き合うチームメイトなどの支えで「また野球ができるんだ」という実感が出てきました。野球以外では「あえて使わないようにしていた」という右手を意識して普段も使うようにしました。「チームメイトの影響が一番大きい」と感謝します。

世界身体障害者野球大会当日、ベンチ前で君が代を聴いた瞬間、再起までの日々を思い出し、思わず目頭が熱くなったと言います。

「野球を通じて希望を失っている人の力になれる。それが今の自分にできること」ときっぱり言い切る千葉さん。3年後に米国で開かれる第2回大会での活躍も誓っていました。

演劇の深さにひかれる

「生まれて初めての演劇は、小学校5年生のときでした。わたしの役はお地蔵さま。ただ立っているだけの役でしたよ」と笑いを交えながら話してくれたのは「第23回奥州胆沢劇場」で演劇の総括的な役割を果たす演出を担当する小野寺直也さん（36）です。

旧胆沢町の「胆沢町民劇場」は22年間続いた歴史ある演劇です。「奥州市になって名称が「奥州胆沢劇場」に変わりましたが、盛り上がりはそのままに引き続き公演します。本年度の公演日は来年2月24・25日です。たまたま小学校のときに演じた地蔵つながりで『てぬぐい地蔵』をやるんですよ（笑）。皆さん、ぜひ見に来てください」と力が入ります。

小野寺さんが本格的に演劇を始めたのは22歳のとき。地元青年会が主催する演劇で役者の欠員が生じたため、友人の誘いで引き受けたのがきっかけです。町民劇場には第10回以降ほとんどに参加。時には日の当たる役者ではなく、助演出などの裏方として舞台を支えました。芝居の作り方などを学ぶことで演劇の奥の深さを思い知らされ、ますますこの世界に引き込まれていきました。

「生き方を見つめ直すきっかけになればいい」

演劇の最大の魅力は人の心を動かすこと

小野寺 直也さん

おの でら なおや

仙台の菓子店で腕を磨く。現在まるかん菓子店2代目。ピーマンまんじゅう、ふわふわ苺は有名。妻、子ども2人、両親の6人暮らし。胆沢区南都田字国分在住。36歳。

手作りで社会問題提起

胆沢劇場は、毎年胆沢にまつわる内容を取り上げており、演劇を見たり演じたりすることで自分たちのまちへの理解を深め、ふるさとを思う気持ちを醸成する機会にもなっています。

今回の胆沢劇場のテーマは「思いやり」。現代では薄れがちなこの気持ちを少しでも感じ取ってもらえればと願っています。もちろん涙あり、笑いあり、感動ありの楽しい作品に仕上がります予定です。

小野寺さんは「空想工房」という演劇好きの仲間で作る劇団にも所属しています。この劇団では時代のさまざまな問題点を題材に演じています。11月にはいじめや命の大切さを訴える演劇を見たPTAの人たちに招かれ、中学校で公演を行いました。演劇の魅力について「人の心を動かせること」と話す小野寺さん。「空想工房」では社会問題を取り上げること、生き方を見つめ直したり、今問題になっていることを考えてもらったりするきっかけ作りを目指しています。

「間接的な立場とはいえ、自分たちの活動が奥州市の元気につながってくれたらうれしい」――地道な活動の中に、確固たる信念が生まれています